

2020年3月25日(水)

老球の細道532号

## コロナで毎日夢球

会津バスケットボール協会 室井 富 仁

今年は大雪の日がほとんどなく雪かき作業を1度もやる必要がなかった。こんなことは記憶にない。雪かきトレーニングは冬の楽しみであったが残念である。私にとって雪かきは大汗をかく貴重なチャンスだからである(室井の幸福の法則①大汗=ビール)

雪が少ないのを喜んでいたのも束の間、今度はコロナ危機である。9年前の東日本大震災時と同じような不便で不安な日が続く。バスケットボールができない日々も。人生はまさに良いことの後は悪いこと、悪いことの後は良いこととバランスよくやってくる。

当初専門家の知見などで、新型コロナウイルスはSARSに比べればたいしたことはない。またWHOによると全年齢平均の致死率は3・4%で、主に病気を抱えている高齢者が重症化するということがだったので、こんなに世界中で大騒ぎになるとは思っていなかった。今では東京五輪の延期、もしくは中止にまで影響を与えている。

明日は我が身。会津地方ではまだ感染者が現れてはいないが、特效薬がない現状においては、高齢者のカテゴリーに属する私も十分注意しなければならない。なんといっても最後に頼りになるのは免疫力と体力、これを低下させないように日々用心である。ところで、感染症のスタメン、インフルエンザ君は今年はどこに行ってしまったのだろう？

世の中が自粛ムードの中で、こんな時こそスポーツがと思っても、スポーツ自体も自粛の対象になってしまっている。Bリーグをはじめ色々な競技スポーツが無観客試合を実施したが、やはり競技スポーツは観客もゲームプレイヤーの一員であり、観客なくしては選手のモチベーション、競技レベルに大きく影響する。無観客試合は観客の安全は守られるかもしれないが、選手、審判、TOオフィシャルの健康、安全も考慮されなければならない。来月から再開する予定だが、予定通り試合ができることを祈らずにいられない。

ほとんどの学校が休校になり、それに付随して部活動も休みのため、今月は各種大会、クリニックの依頼がほとんどなかった。ピンチはチャンス。突然できた自由時間をFIBA(国際バスケット連盟)の世界トップコーチによるバスケットボールクリニックをインターネットで観戦(感染)した。こちらの感染は命、健康には影響を及ぼさなかったが、睡眠の質を下げてしまった。毎晩のようにバスケットボールの夢を見る。

自宅と一緒に住む孫たちにドリブルを指導した。家のあちこちにボールが置いてあるので、好きな時に取り出して遊ぶようになった。孫相手のドリブルやパスキャッチなどで将来の夢を膨らませている。

東京五輪やプロスポーツが危ぶまれている今日、新学期から小中高校のバスケットボール活動はどうなるのか。毎日、新聞、テレビでコロナ関連ニュースを見ながら、日暮インターネットFIBA・YouTubeに向かいてバスケットボールの再開を夢見る毎日である。